

- デイサービスセンター
- 認知症対応型デイサービスセンター
- ホームヘルプサービス
- 認知症対応型グループホーム
- ケアマネジメントサービス

本部事務所
〒169-8526 新宿区大久保2-2-6 ラクアス東新宿
TEL 03-6233-7600(代) FAX 03-3232-2581
Eメール palsystem-tokyo@pal.or.jp

配送センター
江東センター 〒136-0076 江東区南砂2-36-1
港センター 〒108-0075 港区港南5-5-12
池尻センター 〒154-0001 世田谷区池尻2-23-4
足立センター 〒121-0011 足立区中央本町4-3-7
青梅センター 〒198-0024 青梅市新町3-11-1
八王子センター 〒192-0033 八王子市高倉町4-7
昭島センター 〒196-0021 昭島市武蔵野2-23-2
多摩センター 〒206-0032 多摩市南野1-2-5
東村山センター 〒189-0011 東村山市恩多町1-10-1
府中センター 〒183-0052 府中市新町2-29-4
世田谷センター 〒157-0061 世田谷区北烏山7-21-11
大田センター 〒146-0081 大田区仲池上1-31-1
練馬センター 〒179-0073 練馬区田柄4-38-5
江戸川センター 〒132-0025 江戸川区松江2-10-18
三鷹センター 〒181-0013 三鷹市下連雀6-15-18
板橋センター 〒174-0041 板橋区舟渡3-20-28
狛江センター 〒201-0003 狛江市和泉本町4-5-24

福祉事業所
● 江戸川陽だまり 〒132-0025 江戸川区松江2-10-18
● 辰巳陽だまり 〒135-0053 江東区辰巳1-2-9-101
● 江戸川陽だまり 〒135-0053 江東区辰巳1-1-34 辰巳ビル3F
● 東雲陽だまり 〒135-0062 江東区東雲2-4-3-106
● 足立陽だまり 〒121-0011 足立区中央本町4-3-23 2F
● ● 八潮陽だまり 〒140-0003 品川区八潮5-2-2 八潮ビル2・3F
● ● 中野陽だまり 〒164-0003 中野区東中野4-7-9 1・2F
● ● 第2中野陽だまり 〒164-0003 中野区東中野1-4-10
● 中野中央陽だまり 〒164-0011 中野区中央5-41-18 東京都生協連会館5F
● ● 上町陽だまり 〒154-0017 世田谷区世田谷2-8-2 パルテノン上町1F
● ● 狛江陽だまり 〒201-0003 狛江市和泉本町4-5-24
● ● 府中陽だまり 〒183-0054 府中市幸町2-13-29
● ● 府中陽だまり 〒183-0054 府中市幸町2-13-30
● ● 東村山陽だまり 〒189-0011 東村山市恩多町1-10-1
● 愛宕陽だまり 〒206-0041 多摩市愛宕3-2
保育園
ぱる★キッズ府中 〒183-0054 府中市幸町2-13-29 1F
ぱる★キッズ足立 〒121-0011 足立区中央本町4-3-23 1F
関連施設
パルひろば辰巳 〒135-0053 江東区辰巳1-1-34 辰巳ビル2F
パルひろば足立 〒121-0011 足立区中央本町4-3-23 3F
パルひろば下馬 〒154-0002 世田谷区下馬4-13-6



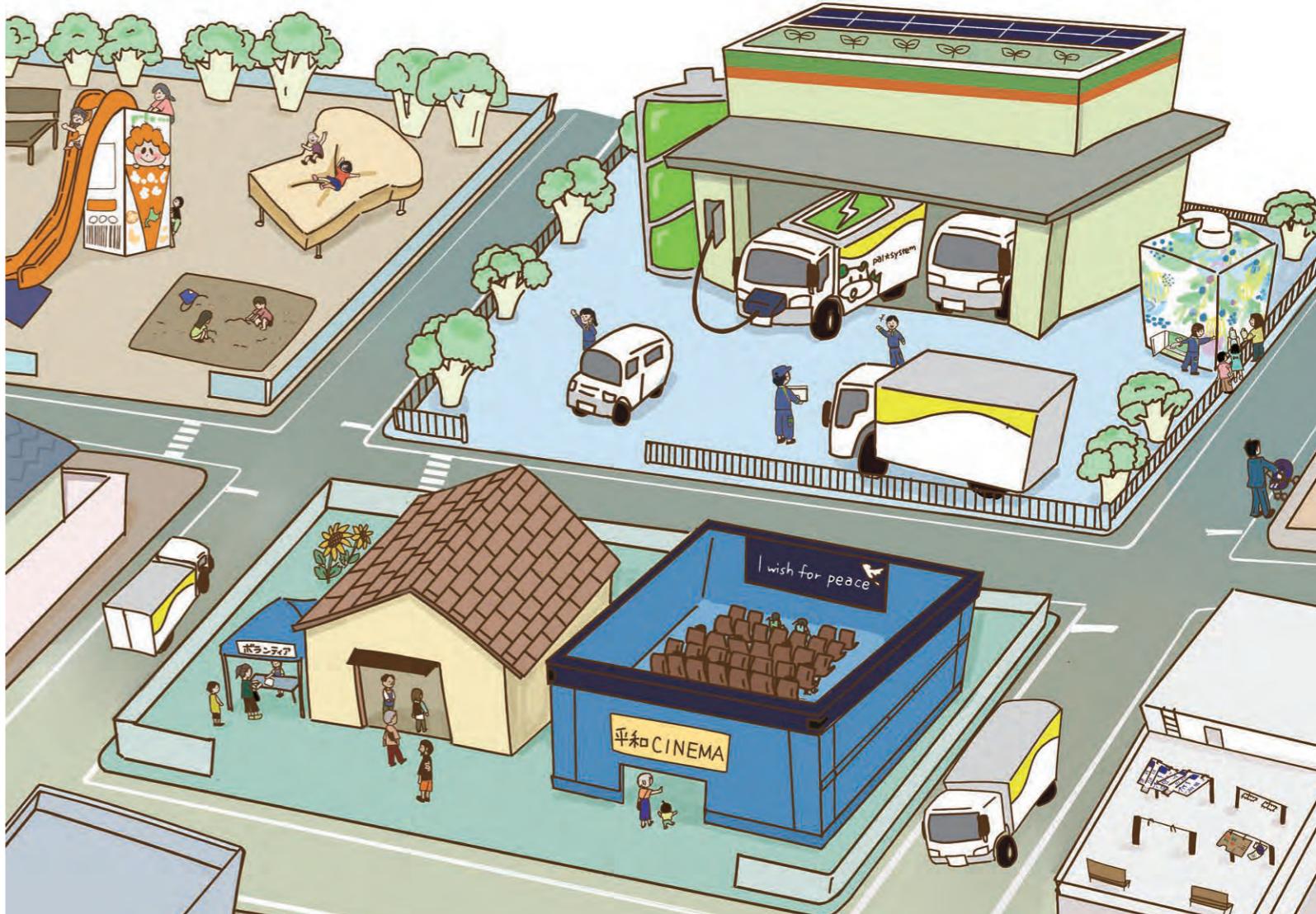
2023年度JCSI(日本版顧客満足度指数)
調査結果 生命保険部門



発行 生活協同組合パルシステム東京 広報室
2024.06

TSUNAGU 2024

生協・環境・社会活動報告書



INDEX

パルシステム東京について

パルシステム東京の理念	4
パルシステム東京2030ビジョン	5
パルシステムグループ	5
組織概要	5
働く環境づくり	6



パルシステムの事業

事業	8
福祉	10



「食」の取り組み

1.安全な「食」を求めて	12
2.商品の価値を考える	13
3.食料自給率の向上を目指して	14
産地交流	15



「環境」の取り組み

1.環境方針	16
2.組合員と共に学ぶ	17
3.事業における環境課題解決に向けて	18
4.他団体と一緒に取り組む	18
組合員、職員が学ぶ場・いなぎめぐみの里山	19



「人」の取り組み

「人」の取り組み	20
平和と復興支援の取り組み	22



生協とは？

生活協同組合(以下、生協)は、組合員の生活の文化的・経済的改善向上をはかることを目的に設立された組織です。組合員自らが出資し、自分たちのくらし全般を向上するためにそれぞれの思いを寄せ合って決めた方針に基づく商品・サービスを利用します。組合員一人ひとりが、生協組織の「主体」なのです。



一人ひとりの
力を大事に
地域でつなぐ

生活協同組合
パルシステム東京

理事長
松野 玲子



本冊子「TSUNAGU」をご覧いただいている皆さんには、日頃よりパルシステム東京の事業と活動に关心と温かな励ましをいただき、心より感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、コロナ禍前の日常が戻ってきました。再び、直接、顔と顔を合わせたコミュニケーションが活発になってきたことを喜ばしく思います。

一方で、世界では、解決への糸口が見えないウクライナ情勢やパレスチナ・ガザ地区の現実など、平和の危機は収まる気配がなく、国際的な原料高騰による物価の上昇や、多発する自然災害、コロナ禍で広がった格差や不寛容な風潮は、人々のくらしに影を落としています。

このような社会情勢の中、より良い社会づくりをめざす助け合いの組織として、当組合の価値が問われていると、期待と責任の重さを感じております。

2023年度、パルシステム東京では、「くらしに困っている方をともにささえる地域活動方針」を策定しました。この方針は、2020年に策定したパルシステム地域福祉政策をより着実にすすめるために、組合員の力と地域の力をしっかりとつないですすめていくことを宣言したものです。

遠い世界も私たちの食卓とつながっている、そんな思いを込めた「もっといい明日へ 超えてく」アクションなどの取り組みを通じて、2030ビジョン『たべる』『つくる』『さえあう』ともにいきる地域づくり～一人ひとりの行動で、持続可能な地域社会をつくり、世界の平和につなげます～の実現に向けて、それぞれがくらしの中でできることを探して挑戦することを呼びかけています。今年も皆さんといっしょに、より良い社会を目指して歩んでいかなければ幸いです。

パルシステム東京の理念

‘食べもの 地球環境 人 を大切にした 社会をつくります’

01



食べものの安全性にこだわり、
生活者の暮らしと健康を守ります

02



日本の食料自給力を強めるため、生産者とともに産直運動を発展させます

03



安全・品質・価格・産直・環境面でもっと優れた「商品」をつくります

04



女性の社会参加を応援します

05



平和、地球環境、福祉、たすけあいの活動を広げ、地域社会に貢献していきます

パルシステム東京2030ビジョン

たべる・つくる・ささえあう
ともにいきる地域づくり

一人ひとりの行動で、持続可能な地域社会をつくり、世界平和につなげます

わたしたちが
めざすもの

つくる
(農・産直)

「つくり」手との絆を深め、
持続可能な生産と消費を
地域社会に広げます。

ささえあう
(福祉・たすけあい)

身近な「ささえあい」を通
して、誰もが暮らしやすい
地域社会を広げます。

たべる
(食)

「たべる」ことの大切さを
伝えあい、安心で心豊かな食を地域に広げます。

きりかえる(環境)

一人ひとりのくらしを「きりかえ」、
多様な命を育む環境を広げます。

わかりあう(平和)

「わかりあう」心を広めて、一人ひとりが大切にされる
共生と平和の社会をつくります。

実現するための取り組み

社会活動

- 社会的課題の解決に向けて、NPOをはじめとした他団体や協同組合間で連携した取り組みをすすめます。
- 笑顔ひろげる身近な地域づくりに向けて、事業所を拠点に、行政・地域団体と連携した取り組みをすすめます。

事業と活動

- 人生100年時代を見据えた学びや活動の機会を広げていきます。
- 一人ひとりの多様な暮らしに対応した事業の改善・開発をすすめます。

人と組織

- 生協運動の活性化と継承に向けて、組合員参加の入り口を広げるとともに、扱い手づくりをすすめます。
- パルシステムを担う人材の多様な働き方の創出や雇用環境の整備をすすめます。

パルシステムグループ

商品や環境政策などについて考え方を共有している10生協※が、パルシステムグループを構成しています。パルシステム東京はこのグループの中で、総事業高と組合員数ともに最大規模の生協です。

※利用事業会員を含めると13生協

パルシステム連合会

商品開発、仕入れ、商品管理、物流、情報システムを担当

それぞれの生協

商品やサービスの供給(個人宅配など)、福祉事業、組合員活動の支援ほかを担当

pal*system

パルシステム生活協同組合連合会

パルシステムグループ 組合員数171.4万人

パルシステム福島

パルシステム埼玉

パルシステム新潟ときめき

パルシステム茨城 栃木

パルシステム群馬

パルシステム千葉

パルシステム山梨 長野

パルシステム東京

パルシステム静岡

パルシステム神奈川

組織概要

名
設
役
称
立
員
専
業
務
執
行
理
事
市
嶋
松
野
玲
子
学
剛
是
市
嶋
淳
一
菊
地
剛

事業エリア：東京都全域(島嶼を除く)
本部所在地：東京都新宿区
配送センター：17カ所
福祉事業所：13カ所
保育園：2カ所

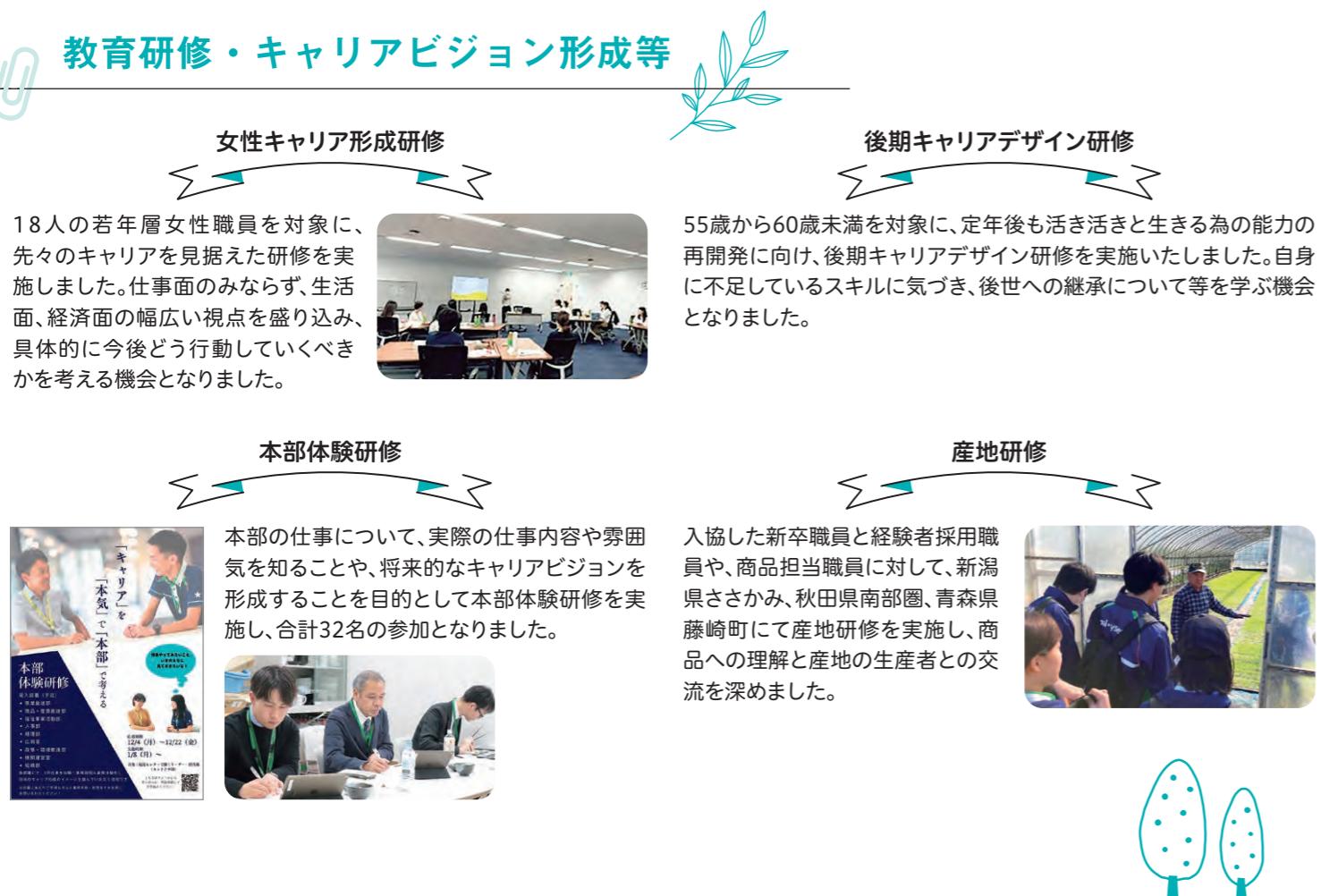
職員数：1,768人
組合員数：53万2,465人
総事業高：863億1,454万円
出資金：221億8,826万円
※数値は2024年3月末時点

働く環境づくり

Work Environment



教育研修・キャリアビジョン形成等



リスクマネジメント

内部統制システムの推進

組合員と社会に信頼される健全な組織体制を整備するために、「内部統制システム基本方針(組織体制の整備と運用を効率的に行うために必要な基本方針)」(2009年12月制定、2021年3月改定)に基づき取り組んでいます。

内部統制システム 基本方針の検討

毎年定期的に①機関設計の見直し②法改正③生協業界の動向④業務内容の大幅な変更⑤その他事項の項目にそって検討を行っています。

リスクマネジメント システムの推進

組織の事業活動の中で想定されるリスクを洗い出し、そのリスクに対するマニュアルや規程類の確認を行っています。その上で組織全体で重要度の高いリスクに対しての対策や計画を策定しています。

財務報告の信頼性確保

財務報告の信頼性確保はもとより、業務の効率化及び「仕事の見える化」を推進するため、決算における業務処理、作業もれを点検するチェックリストの運用を行っています。

内部監査の専門性・信頼性

日本内部監査協会の認定資格である内部監査士の資格を取得した職員が、内部監査の専門性・信頼性の確保のために研修受講などにより、監査能力の向上に努めています。

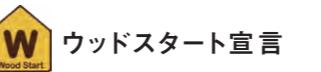
男性育休取得推進

2023年度男性(正規)育休取得について(2022年度末～2023年度に取得者含む)

昨年度に引き続き、配偶者が出産を迎える職員が勤務するセンターへの本部職員による配達支援等を行い、男性職員の育休取得のしやすい環境作りに尽力しました。

短期(6日間)	8名
長期(7日～50日)	7名

※正規職員
※上記は出産休暇3日を加えた日数表記となります。



2015年より福利厚生の一環として、赤ちゃんが誕生した職員家庭へ、国内でつくられた「木のおもちゃ」を贈呈。



メンタルヘルスに関する取り組み

職員のメンタルヘルスや健康についてのさまざまな悩みに24時間365日対応できるよう、オンライン医療相談ツールfirst callを導入。専門分野の医師が職員の心と体の健康管理を支えています。



first call
チャットやTV電話を使い匿名で医師に相談できるサービス

「くるみん」の取得・更新

「一般事業主行動計画」を策定し、少子化対策をはかる子育て支援など、一定の基準を満たした企業や法人が厚生労働省によって認定される「くるみんマーク」を取得しています。2020年度末にて第5期の計画期間が終了し、認定マークが更新されました。

「次世代育成支援対策推進法に関する一般事業主行動計画」及び「女性活躍推進法に関する一般事業主行動計画」は、パルシステム東京ホームページで公開しています



障がい者雇用

2023年度は特別支援学校からの実習受け入れを3事業所にて行いました。また2022年より委員を担っている東京都障害者就労支援協議会にて、パルシステム東京の障がい者雇用の雇用定着の一環でジョブコーチの活用事例、現在抱えている障がい者雇用の課題点とその取り組みについて報告しました。

コンプライアンスの推進

法令・内部規則だけでなく、倫理面でも組合員・社会の期待に応えられる行動や判断を行うための指針として行動規範を定めています。

行動規範カード

「パルシステム東京行動規範」の本文を掲載した「行動規範カード」を役職員は常に携帯します。カードには「行動規範」のほか、「コンプライアンス相談窓口連絡先」「こころとからだの健康相談窓口」「交通事故発生時の対応」「災害発生時の安否連絡手段」などを掲載しています。

相談窓口(ヘルpline)

職員からの相談案件に対応するほか、違反行為の防止や、迅速な是正を目的に設置しています。

コンプライアンス委員会

専務理事のもとに設置され、常勤理事及び執行役員並びに2人の外部有識者で構成。特に外部有識委員(弁護士、コンプライアンス専門家)の意見・具申は、効果的な牽制機能となっています。

事業



共済推進チーム

共済推進の効率化を図るため、新宿本部に「共済推進チーム」を設置しました。「どこでも加入システム（保障プランや申し込み用URLをメールやSMSで送信するシステム）」を用いて、非相対による推進を強化しています。これまで配送センターに配置していた共済担当を新宿本部に集中させることで、共済担当同士のスキル共有や意識向上に繋がっています。



パルシステム・クオリティアップチーム

事業推進部に新設した「クオリティアップチーム」は、新卒職員及び経験者採用職員の同乗指導及び定期的な安全運転フォロー教育を実施しています。また、さらなる組合員の満足度向上を目指し、配送業務の効率化、組合員接遇などの業務品質における「平準化」を図るため、「パルシステム・クオリティブック（配送マニュアル）」を作成しました。どの職員でも同じ品質で商品をお届けすることを目指します。



配達担当 4つのこころえ

私たち配達担当が
窓口となります

- パルシステムで統一しているあいさつをします（こんにちは、パルシステムの○○です）
- お問合せには誠実に対応します（分からない場合はお調べしてお答えします）

商品を大切にお届けします

- お届けする商品はていねいに取り扱います
- 大雨や強風などの際は商品の置き方に配慮します

組合員のみなさんとの
約束を守ります

- 約束事は記録し、配達時に確認します（置き場所、注文用紙回収場所、チャイムなど）
- 注文用紙以外の回収物がある場合は、お預かり書やメモなどをお渡します
- 配達担当が変わっても約束を守つてお届けできるようにします



第2回パルシステムコンテスト

さらなる組合員満足度向上を目指し、17センターから配送担当を1名ずつ選出し審査を行う「パルシステムコンテスト」を昨年度に引き続き開催しました。実演動画を後日共有することにより、スキルの向上やモチベーション向上の機会を創造しました。コンテスト出場を目指す担当も増え、配送担当全体の業務品質向上・意識向上に繋がっています。



産地との架け橋「商品担当」

産地、センター、組合員の3者をつなげる役割の「商品担当」は、商品に込められた生産者の想いを実際に産地へ行って学び、学んだこと、感じたことを職場の仲間と共有し、組合員へ伝えることに尽力します。商品担当7期生は2019年に台風被害にあったりんごの産地、サン・ファームに訪問し下川代表からりんご園が水没してから、再生に至った経緯を伺い、組合員へ発信しました。

「くらし応援企画」で組合員に還元

2023年度はパルシステム東京独自のくらし応援企画を計5回実施し、約2億5,920万円相当を組合員に還元しました。今後も組合員のくらしに寄り添った企画を実施していきます。

企画	内容	還元金額
8月5回	防災商品11品5%OFF	約300万円
9月1回	全品5%OFF	約7,900万円
12月2回	東北応援21品10%OFF	約480万円
1月4回	防災商品5%OFF+5%分ポイント付与	約420万円+420万ポイント
1月5回	全品5%OFF+5%分ポイント付与	約8,200万円+8,200万ポイント
合計		約2億5,920万円相当



オリコン顧客満足度調査 総合1位獲得

パルシステムは、「2024年 オリコン顧客満足度（R）ランキング」の「食材宅配 首都圏」で総合1位を獲得しました。「利用のしやすさ」「商品の充実さ」などの評価項目で1位のほか、「子育て世帯」「共働き世帯」はじめ幅広い層から評価されました。



新しく組合員となった人

42,797 人

新型コロナウイルスの5類移行に伴い、各種イベントへの出展を再開し、多くの方にパルシステムの良さをご案内しました。SNSの使用など各種施策を講じたことにより、新規組合員の利用人数はコロナ禍よりも向上しました。

福祉

福祉事業所「陽だまり」

パルシステム東京の「陽だまり」では、「地域に根ざした総合サービス」を目指して、ケアマネジメントサービスや訪問介護、通所介護、グループホームなどの福祉サービスを展開しています。



外国人技能実習生

「2025年問題」といったキーワードに象徴される日本社会の高齢化問題は「陽だまり」にも直接影響を与え、「湾岸エリア」をはじめ慢性的な人材不足に苦しんできました。そこで今後の事業の安定継続のためにも海外人材の導入をはじめ、現在9名の外国人の方が所属しています。



介護職員初任者研修（旧ヘルパー2級）

パルシステム連合会が2014年度から行ってきた「介護職員初任者研修」は「人材確保」というよりも会員生協へのサポートや地域福祉への貢献を目的としたものでした。しかし、2023年度よりパルシステム東京として研修に参画し「人材確保」への取り組みを重視、介護の知識・技術だけではなく、一人でも多くの方が就業していただけるよう「陽だまり」で働くやりがいや楽しさをアピールしています。



食育産地交流

産地生産者を講師に招き、親子で行う「味噌づくり」の体験会と、親子で「産直献立」を試食する企画を、約4年ぶりに開催しました。「食べるものを自分でつくる」「生産者と交流しながら味わう」体験によって、食材の「物語」に共感する声と、パルシステムへの理解が深まったという声があふれました。開催にむけて「みんなでひとつのものをつくり上げることにワクワクした!」という職員の意見もあり、参加者・職員・生産者が一体となる機会となりました。



認証保育所「ぱる★キッズ」

都内2カ所で東京都認証保育所「ぱる★キッズ」を運営。保育理念「たべる・食育」「ふれあう・木育」「あそぶ・遊育」のもと、健やかなかからだと豊かな心を育んでいます。



規格外食材

ぱる★キッズ(府中園・足立園)では、パルシステム直営園ならではの「食育」を行い、2023年度には通常の出荷が難しい「規格外食材」を通して「一つひとつ同じものがないこと(多様性)」や「生き物をいたでいる(命をいたでく)」等と体験から、子どもたちの学びの場が広がりました。

更に「規格外」の食材も、厨房での加工・調理可能なものが大半となり、給食やおやつとして、あるいは親子行事などでも積極的に活用。食べることがそのまま消費活動にもつながりました。園児の保護者からも、規格外食材の活用・消費やSDGsに協力・寄与できることに喜びの声をいただいています。

年間を通じた取り組みとして実施し、下記のような効果が得られました。



保護者

産地や生産者を身近に感じ、産地名の周知が進んだ。



子どもたち

食材の「物語」を知り触れる事で、「食べる意欲」につながり、実質的に食べる量が増え、食べることを楽しむようになった。

野菜の皮むき等を通して、品目や個体差毎の力の入れ方を学び、手先を使うことを楽しむようになった。



職員産地研修（うなかみ）

規格外食材の提供産地のひとつ「JAちばみどり海上産直部」の組合員交流企画に当園の保育士が同行・参加しました。親子参加者も多い中、子どもたちへの声掛けや安全管理等を行いながら、職員自身もパルシステムの産直産地を五感で感じ、食材への理解が深められる機会となりました。

帰園後は、よりリアルに産地や生産者の現状を伝えられるようになるとともに、実際の活動にも活かすことで子どもたちの食育に幅と奥行きが広がりました。

食の取り組み

食べることは、生きること。
ほんものの味わいと安心を届けたい。



01 安全な“食”を求めて

パルシステムでは、持続可能な生産や安全・安心な商品づくりを目指し、生産者やメーカーとともに、農薬・化学肥料の削減や、食品添加物の削減に取り組んでいます。

農薬削減への取り組み

コア・フードとエコ・チャレンジ

1988年に「農薬削減プログラム」を策定し、毒性の強い農薬を避けながら農薬の総量を削減する取り組みをすすめてきました。その中で生まれたのが、パルシステム独自の基準「コア・フード」と「エコ・チャレンジ」です。

コア・フード	エコ・チャレンジ
化学合成農薬 有機JAS認証 [®] を取得 ※化学合成農薬、化学肥料不使用 (定められた使用可能資材を除く)	各都道府県の 慣行栽培基準の1/2以下
化学肥料 不使用	各都道府県の 慣行栽培基準の1/2以下
その他	パルシステムの「削減目標農薬」は 原則不使用 青果は除草剤、土壤くん蒸剤不使用

高温多湿で病害虫による被害が発生しやすい日本の環境の中でも、多くの産直産地で、非常に高いレベルの栽培に挑戦しています。

食品添加物削減の取り組み

不必要的添加物は使いません！

国よりも厳しい「食品添加物の独自基準」を設け、国が認可した添加物約1,500種のうち約1/4を使用不可に。さらに、独自基準内であっても、安易に添加物を使用しないようにしているため、実際の使用数は400種ほど。素材本来の良さを生かした商品づくりをすすめています。



パルシステムの商品づくり

組合員による開発協力商品

メーカー、パルシステム、組合員が協力して、組合員の“あったらいいな”を形にする「ほしいをカタチにプロジェクト」。加えて、今年は組合員の声を商品開発に活かす「商品モニター」にも取り組みました。

Renewal

ほしいをカタチにプロジェクト

「やさしいうるおい保湿ローション・クレンジングオイル」のリニューアル

パルシステムを代表する基礎化粧品をリニューアル！10名の組合員がサンプル試作を重ねて開発しました。※2024年9月3回「素肌時間」で登場予定

リニューアルポイント

- 保湿ローションは、うるおい、とろみ、保湿力、ハリ感がアップ！
- クレンジングオイルは、洗浄力アップでダブル洗顔不要に！
レモングラス天然精油で癒しのクレンジングタイムを



組合員商品モニター

「拭くだけササッ！と窓キレイシート」

の新規開発

環境に配慮した成分・パッケージにこだわり、15名の組合員が意見を出し合い開発しました。※2024年6月2回「パルくらす」で登場

開発ポイント

- アルコール成分は、自然由来で食品成分としても使われる優しい成分を使用
- パルプとレーヨンのシートを導入し、プラスチック不使用に！



白衣を着て、検査室を見学



パルシステムの残留薬剤の検査でも
使われる原理を学びました。



あんぜんを学ぶ取り組み

夏休み親子科学実験教室

コロナ禍の3年間はオンラインで開催していた「親子科学実験教室」を4年ぶりに「ぱるあんしん館(パルシステム商品検査センター)」で開催しました。

白衣に着替えた子どもたちは検査室を見学した後、科学者さんがらに2つの実験に挑戦！子どもたちの興味津々の笑顔があふれ、食の安全を身近に感じる機会となりました。



02 商品の“価値”を伝える

パルシステムは、商品を選ぶことで社会を変える取り組みを実践しています。商品の価値を広めるため、学習会や産地見学などを開催し、組合員と生産者、メーカーをつないでいます。

組合員講師やメーカーから商品を学ぶ活動

食育リーダー・P L A

食育や商品への理解を広げるため、組合員講師「食育リーダー」「P L A(パルシステム・ライフアシスタント)」による食育講座や学習会を開催しています。

2023年度は、梅シロップや味噌づくりなどの手仕事企画、フレッシュバターやバナナシェイクを手づくりする親子企画などを開催し、食育活動や商品利用につながりました。



P L Aオンライン企画
はじめての梅しごと！
簡単「さ・し・す梅」を漬けよう！



「お米で超えてく」アクション

日本の食料安全保障の要であるお米。しかし、お米の消費量の減少とともに、田んぼも農家も減っています。パルシステムでは、お米の消費拡大を目指す「お米で超えてく」アクションに取り組み、「もっとお米を食べよう」の輪を広げています。

『直火炒めチャーハン』&
『産直ごめたまご』
～未来の「ごはん」のために、
もっとお米を食べよう！～



03 食料自給率の“向上”を目指して

世界最大の農産物純輸入国と言われる日本。食料自給率は先進国の中で最低水準です。

パルシステムの産直は、環境保全・資源循環を基本におき、

農と食をつないで、豊かな地域社会をつくることを目的としています。

米づくりの体験実習 「お米の出前授業」

東京都の小学5年生を主な対象として、小学校や幼稚園・保育園、地域コミュニティなどで行っています。食の多様化がすすむ中、日本人の主食であるお米の大切さや、作り手の取り組みを体験型で学習。お米への興味関心、生産者への親近感を通して、「お米を食べよう！もう一杯！！」と食料自給率の向上に取り組んでいます。

規格外食材の活用

出荷基準の大きさに満たないもの、傷がついているものなどは、「規格外」として出荷できず廃棄となっています。パルシステムでは食品ロス削減を目的に規格外食材を有効活用する取り組みを開始。組合員に利用を呼びかけるチラシの作成や、パルシステム東京が運営する認証保育所「ぱる★キッズ」の給食食材への活用(P.11)を通じ、異常気象下で生育不良に悩まされている産直産地を応援する運動を展開しました。



公開確認会

公開確認会は、組合員自身が農畜産物の栽培方法や安全性などを直接確認するとともに、生産者と消費者が、課題や情報を共有して改善につなげていくパルシステム独自の取り組み。2023年度は「八千代産直」にて、小玉すいかを監査品目として開催しました。



出前授業を受講した児童・園児数

2023年度

163校(園・館) — 12,327人

うち小学校5年生12,303人
都内小学校5年生の12%



活動レポートは[こちら](#)

PLA企画
有機米で「鍋炊きごはん」を
極めよう！

産地交流

パルシステムの産直には、多くの物語がつまっています。それは商品のやり取りだけでなく、長い年月をかけ、生産者と組合員の交流を通じて、紡いできた財産。組合員は生産者の努力を知り、生産者は組合員の声を聞くことで、「顔の見える関係」を築いてきました。信頼関係をつくる上で欠かせないのが産地交流です。



桃・ぶどうの産地 “御坂うまいもの会”

4パーミル・イニシアチブって？

剪定したぶどうや桃の枝を燃やして炭にし、畑にまくことで炭素を地面に閉じ込め、地球温暖化への対策をしている産地が、御坂うまいもの会です。産地交流では、エコ・チャレンジぶどうの収穫体験を行うとともに、このような陰ながらの努力を伝えています。



参加者の声

ぶどう収穫体験に加え、4パーミル・イニシアチブの取り組みが大変興味深かったです。生産者がどういう想いで、作物を育てているかを知るきっかけになり、参加した子どもは、以前より一粒一粒大事に食べています。



エコ・りんごの産地 “雄勝りんご生産同志会”

パルシステム東京との付き合いは50年以上！

りんごをエコ・チャレンジ栽培でつくるのは、大きなリスクがあります。2023年の収穫量は、高温により例年以上の害虫発生等の影響で、大幅に落ちてしまったとのこと。それでも、エコ・チャレンジ栽培でつくり続けているのは、組合員に安全で安心な商品を届けたいからと、生産者の小野田さんは話してくれました。

参加者の声

エコ・チャレンジのりんごをつくるのがどれだけ大変か初めて知りました。あれだけ実をつけても半分以上は鳥や熊に食べられてしまっているのも驚きました。普段、無意識に値段中心に選んでいましたが、これからはパルシステムのりんごを買います！



産直米「エコ・つや姫」の産地

“JA山形おきたま”

草取り・稻刈りを通じて

JA山形おきたまの交流企画では、収穫の楽しさだけでなく、腰の折れる草取り作業も体験します。稻刈り交流で収穫した稻は、都内の小学校で行う「お米の出前授業」で使用しています。田畑に流れ込む水を活用して小水力発電も行っており、発電された電気はパルシステムでんきを通して組合員に届けられています。



参加者の声

生産者の苦労や想いに触れ、長井市ならではの美味しいお米ができる理由も知ることができたのが良かったです。カエルを怖がっていた息子は田んぼの可愛いアマガエルに夢になりました。2日目には手で捕まえられるようになっていました。



新潟県上越市の酒蔵

“よしかわ杜氏の郷”

パルシステム東京にはお酒の産地もあります

米どころの新潟県は、日本酒も有名な産地です。パルシステム東京も出資する酒蔵「よしかわ杜氏の郷」では、冬の冷たい水を使って洗米作業を行う蔵人体验企画や日本酒学習会を行い、毎年大人気です。「天惠楽 純米」は日本最大の全国燗酒コンテストで金賞を受賞しています！



参加者の声

日本酒の知識が深まり、商品に対する愛着が増しました。押し寿司づくりを通して新潟の文化に触れることができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。子どもははじめての積雪と雪遊びが楽しすぎて、帰って来た日からまた新潟に行きたいと言っています。

環境 の取り組み

パルシステム東京ではパルシステムグループの「環境・エネルギー政策」を推しすすめるため、「パルシステム東京 環境方針」を改定しました。環境方針に基づき、継続的な環境推進活動を組合員や役職員、事業パートナーなどと一緒にすすめています。

01 「脱炭素社会」 の実現に向けて取り組みます。

事業所におけるCO₂排出量46%削減^{※1}を目指し、事業と組合員のくらしの両輪で省エネルギーを推進します。

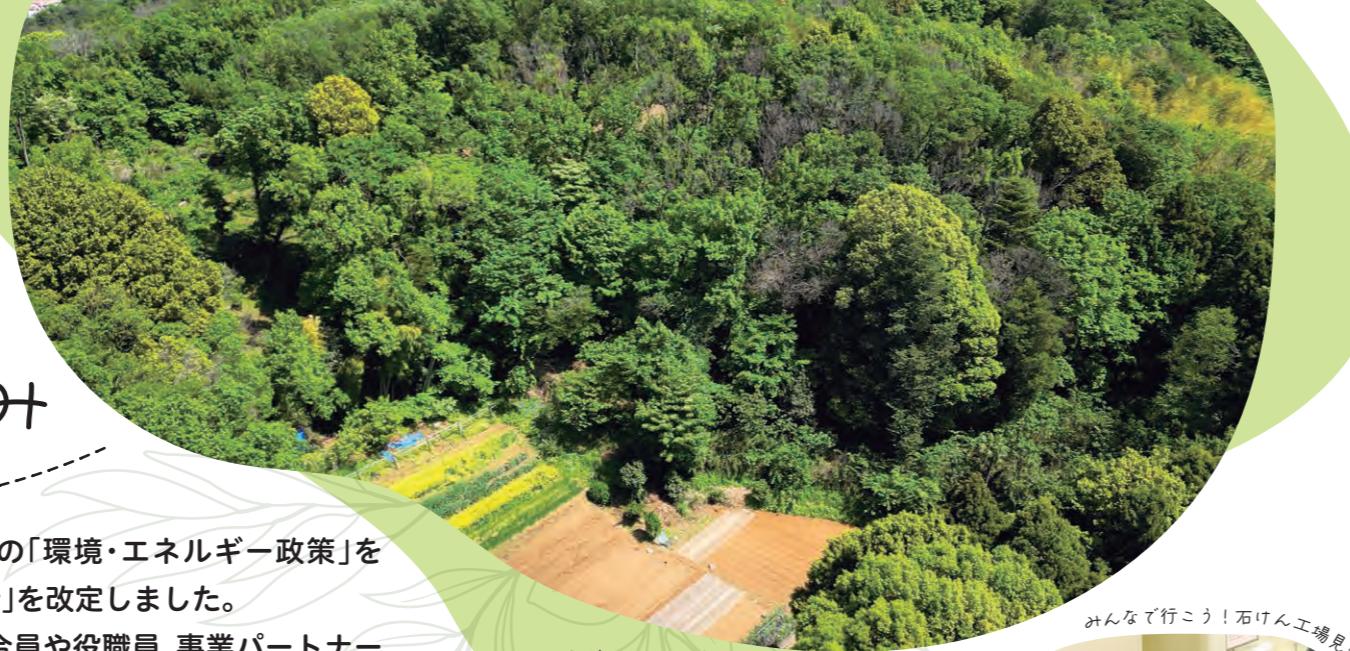
※1:2030年までに2013年度比で46%削減

03 「自然共生社会」 の実現に向けて取り組みます。

都内の緑地や里山、産直産地などで生物多様性保全と森林保全に取り組みます。

05 くらしの視点 で組合員と環境活動に取り組みます。

くらしの視点で身近な環境問題に取り組み、石けん運動など組合員参加の環境活動を広げます。



3R、ペーパーレス化、容器包装と物流資材のプラスチック削減^{※2}に注力し、環境負荷を可能な限り減らします。

※2:PETボトル商品を扱わないことを含む

04 「脱原発」 の実現に向けて取り組みます。

パルシステムグループや他団体と連携して取り組みます。また、組合員とともに電力事業を支え、再生可能エネルギーを広げます。



組合員と共に学ぶ

環境方針の項目について深く学んだり、くらしとの結びつきに気づくきっかけとなる学習会や企画の実施、組合員同士の学び合いを行っています。

パルシステムの 「石けん」の輪を広げる

前身の生協から取り組まれてきた石けん運動。組合員の思いを次世代につなぎ、石けんの良さを広めたい。そのため石けんにふれ、石けんと水環境の関係や石けんの製造過程・使い方などを知る企画や広報を行っています。



WEBまんがはこちら



プラスチック問題を考える

私たちの生活の中にはプラスチック製品があふれています。プラスチックごみが環境・生き物に与える影響について、有識者による学習会や体験学習を通して学び、プラスチック問題を自分ごととしてとらえ、使用や廃棄方法などのライフスタイルを見直すきっかけをつくることを目指しています。



みんなで3R[※]する

パルシステムは資源の国内循環と廃棄物削減のため、リデュース・リユース・リサイクルをすすめています。多くの組合員にこの輪に参加してもらえるよう、廃棄物の現状や3Rの大切さ、パルシステムならではの仕組みなどを楽しく学べる見学会や参加型キャンペーンを行っています。

※リデュース(Reduce)発生抑制、リユース(Reuse)再使用、リサイクル(Recycle)再生利用の頭文字をとり「3R」



組合員同士の学びの場

石けんの良さや使い方、家庭の省エネなど組合員同士で学び合う出前講座なども行っています。



事業における 環境課題解決に向けて

環境マネジメントシステムを活用し、事業の環境負荷低減に取り組んでいます。近年は、脱炭素・脱原発の推進のため、多くの事業所で再生可能エネルギーを主電源とするパレシステムでんき※を使用。

さらに、配送センターでは太陽光発電設備や省エネ機器の設置、EV車両の導入なども積極的に行ってています。また2023年度はパルシステムでんきの発電産地の「環境価値(CO₂を排出しない価値)」活用の調査として、「FIT非化石証書」を昭島センターへ紐付けし、同センターにおける電気由来CO₂の排出量ゼロ化(カーボン・オフセット)を行いました。

今後もCO₂排出量46%削減(2030年まで)を目指して、施策をすすめる予定です。

※パルシステムグループの子会社の株式会社パルシステム電力が供給する再生可能エネルギー発電を主体とした電気



による小水力発電施設の見学(パレシステムでんき発電産地)

[動画はこちら](#)



活動レポートはこち



Column

「パルエコアース」とは

職員全体で環境方針に取り組むために生まれた環境担当者。各配送センターから一人ずつ選ばれました。みんなで話し合い「パルエコアース」と命名！『楽しく、緩やかに』を行動テーマに環境問題やパルシステム東京の取り組みについて学び、組合員や一緒に働く職員と共有し、環境の輪を広げました。



他団体と 一緒に取り組む

パルシステムグループの他、せっけん運動ネットワーク、さようなら原発実行委員会やワタシのミライ、チームもったいないなどの様々なNPOや団体、行政と連携して活動を行っています。組織単体では取り組みづらいテーマも協力し合うことで広げることができます。

組合員、職員が
学ぶ場

いなぎめぐみの里山

「いなぎめぐみの里山」は、パルシステム東京が「農と緑の創生」をキーワードに、地域社会との交流も含め、生協組合員が参加できる「場(農と里山体験ゾーン)」として2004年に開設しました。

2018年3月には、所有する土地のうち約2.1haの山林が稻城市の「自然環境保全地域」に指定され、様々な取り組みが行われています。



人

の取り組み

組合員一人ひとりの思いが
地域の笑顔につながる。

“地域”とつながる

地域のつながりが薄れる中で、組合員活動は貴重な場となっています。
人と人がつながり、ネットワークが生まれ、地域の活性化につながることを期待し、
パルシステム東京は、組合員の活動をさまざまな方法で支援しています。
また、継続的な市民団体とのつながりから、新しい可能性が生まれています。

地域で広がる活動

組合員同士が学び合う「委員会活動」を中心に、さまざまな活動をしています。食の安全や環境、平和や福祉をテーマにしたものや、くらしを豊かにする文化的活動など、身近な地域やテーマごとにつながりを持っています。



パルシステム東京の委員会活動

2024年3月末時点

委員会数 ————— 153 委員会
2023年度企画数 ————— 496 企画
のべ
参加人数 ————— 7,425 人

「福祉・たすけあい助成金」の活用

パルシステム共済生活協同組合連合会では、保障事業で生まれた剩余の一部を、よりよい地域社会の構築に向けて活用しています。主には組合員が自主的に行う子育て支援や福祉たすけあい活動、ライフプランニング活動、健康維持活動などへの助成金です。
2023年度も地域の手づくりや、子育て支援をテーマにした居場所づくり、がんに関する啓発アクション、子ども食堂への食材等提供支援などの助成金を活用した取り組みを行いました。

絵本シアター&ハープのミニコンサート ～2023年度福祉・たすけあい助成金企画～

小さなお子さんとでかけるきっかけづくりとして「絵本シアター ゆうちゃんと仲間たち」による演劇風の絵本の読み聞かせとハープ演奏を行い、0~1歳を中心の親子で楽しみました。後半には手づくりおもちゃとかつおぶしを配りながら、ぱる★キッズ栄養士による離乳食レシピの紹介や交流をし、にぎやかな時間を過ごしました。

※2021年度市民活動助成基金助成団体

市民活動助成基金

安心してくらせる社会づくりを目指し、活動する「草の根の市民団体」をパルシステム東京の組合員が商品やサービスを利用することで生じる剩余金をもとに、資金面で支援しています。助成終了後の団体間連携などもすすめ、顕在化していない社会課題について、組合員や、社会の認知を広げる取り組みにもつなげています。

市民活動助成基金 実績

2023年度 ————— 12 団体 約 499 万円

1998~2023年 (累計) ————— 307 団体 約 1億 2,069 万円

2023年度「市民活動助成基金」
助成団体はパルシステム東京
ホームページで公開しています



「センターまつり」を開催

日頃の地域への感謝を込めて、配送拠点であるセンター施設内を開放し「センターまつり」を開催。*

パルシステム商品のメーカー・産地が出展し、試食や販売を実施したほか、フードドライブや、センター職員によるダンスショー、子ども向け“おしごと体験”、配送トラック乗車体験などを通じて、地域にパルシステム東京を紹介しました。

*2023年度は4センター(青梅、足立、東村山、八王子)で開催



地域福祉推進の取り組み

小さな子どもから高齢者まで誰もが安心して、自分らしい暮らしを続けられるように、地域ごとの福祉課題に取り組む「地域福祉」を推進しています。

パルシステム東京の施設活用

地域の子ども食堂との連携や、生活困窮者の自立支援の取り組み、委員会交流企画などでパルシステム東京の施設(会議室、調理室、いなぎめぐみの里山)を活用しています。また、行政と連携した高齢者の地域デイサービス、学習支援、障がいのある子どもを持つ家族のレスパイトケアなど、地域の活動を応援する取り組みを継続しています。



フードバンク・子ども食堂などの支援

社会福祉協議会やフードバンクといった地域ネットワークを通じ、支援を必要とする施設(子ども食堂、個別家庭など)へ、調達で発生する予備青果の提供をしたほか、生活に困窮する方への支援として、夏休みと冬休みの期間にフードバンク等の団体から要望の高い「お米」24tを提供しました。



平和と復興支援 の取り組み

平和カンパ

世界の厳しい状況にいる子どもたちに、NGO団体を通じて組合員による寄付活動を毎年実施しています。

2023年度実績

665万8,389円

1996～2023年度累計

2億201万8,157円



令和6年能登半島地震緊急支援募金

令和6年能登半島地震が1月1日に発生。日本生活協同組合連合会を通じて被災した産地や取引先7団体への災害見舞金や、石川、富山、新潟の3県への義援金、被災地での支援活動を行う9団体へ緊急支援募金を行いました。

パルシステムグループカンパ金額実績

2億6,177万4,483円

(パルシステムの産直産地や取引先、タイのバナナ産地含む)

パルシステムグループ全体

2億5,952万2,977円

(バナなどなし)

パルシステム東京

8,244万7,827円

東京電力福島第一原子力発電所 事故被災者応援金

東京をはじめとする各地域のパルシステムが、それぞれ福島原発事故の被災者を支援する団体を推薦し、パルシステムグループ全体で募金活動を行っています。

パルシステムグループ2023年度助成実績

25団体へ 1,890万円

パルシステム東京7団体を推薦

総額 470万円



NPO法人ふよう土2100
いわき自然農業体験

震災復興支援基金「パル未来花基金」

パルシステム東京には、自ら被災者の支援をはじめた組合員もいます。そのような組合員主体の復興支援活動を支援する基金です。

2023年度

7グループへ 総額194万6,000円助成

2014～2023年度(累計)

のべ3,318万8,262円



ナイトピースカフェ

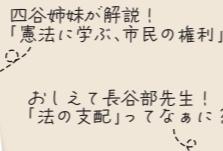
「世界のどこかで起こっていることを知り、日常に新しい気づきが芽生える企画」として2023年度は平日の夜に計4回実施。

第2回のナイトピースカフェ
「サステナブルな生活を送るには…」



憲法学習会 (憲法カフェ)

私たちの生活や、平和、人権と憲法の関係について学び考える憲法学集会。2023年度は「憲法を学んでみよう」、「憲法に学ぶ、市民の権利」、「法の支配」をテーマに3回開催しました。



四谷姉妹が解説!
「憲法に学ぶ、市民の権利」

おしゃべり長谷部先生!
「法の支配」ってなあに?



支援の輪を
広げる

復興支援 Study Tour

みやぎ復興スタディツアー2023

4年ぶりの組合員参加のツアーを開催。3.11の被災地のひとつである宮城県を訪問し、当時の状況や防災についても考えさせられる1泊2日のツアーとなりました。

活動レポートはこち



子どもの甲状腺検診拡大学習会

～終わらない「東京電力福島第一原発事故」を考える～
パルシステム東京「子どもの甲状腺検診」拡大学習会として、会場とオンラインのハイブリット開催を実施。震災後の「喪失感」や廃炉に向けた作業員のリアルな労働環境など、お話を聞きました。

子どもの甲状腺検診

震災から13年経った今でも、放射能の影響を心配している組合員の気持ちに寄り添い、継続して検診を受けることが大切だと、たらちねクリニックの藤田院長は私たちに伝えています。



3.11シンポジウム

3.11を忘れない

「忘れていませんか？13年前のあの日のことを～福島・宮城からのメッセージ～」

東日本大震災から13年、「3.11を忘れない」を基本視点にパルシステム東京でできることに取り組んできました。4年ぶりの会場開催、第1部は福島県浪江町から岡さん、吉澤さんの講演。第2部は映画「生きる」大川小学校津波裁判を闘った人たち』上映＆トークを行い、東北に想いを馳せる日となりました。

活動レポートはこち



平和スタディツアー Study Tour



広島
原爆投下日に訪問し、広島で平和活動に取り組む方々からお話を聞きました。

組合員と役職員が訪問し、長崎の歴史や原爆の被害について学びました。



長崎

下町戦跡めぐり2023～東京大空襲を知ろう～
現地とオンラインのハイブリット開催で実施。
東陽町から東京大空襲・戦災資料センターまでの戦跡めぐり＆空襲体験者のお話を聞きました。



東京

活動レポートはこち
QR code

沖縄の戦跡をめぐり基地問題や平和について学びました。

